

かけはし

学校生活アンケート結果

低学年

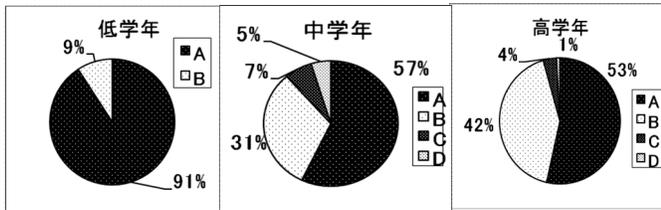
- A あてはまる
- B あてはまらない

中・高学年

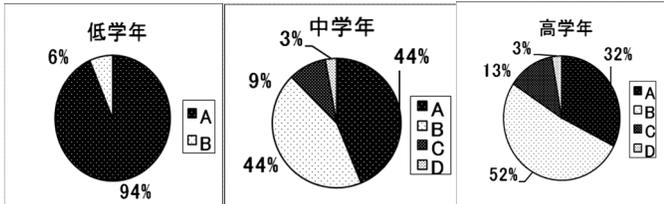
- A あてはまる
- B どちらかと言えばあてはまる
- C どちらかと言えばあてはまらない
- D あてはまらない

2学期に、全校児童を対象に学校生活についてのアンケートを行いました。その結果を報告します。

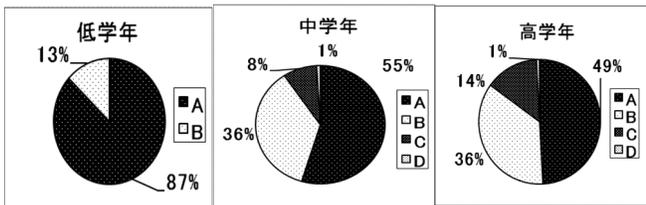
1 学校は、楽しい。



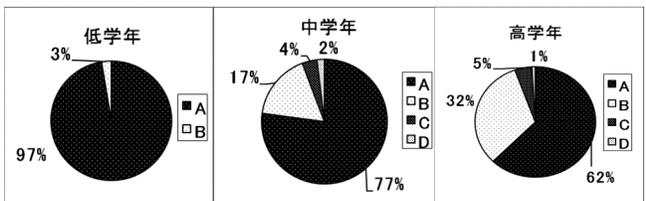
2 基礎基本の時間は意欲的に取り組んでいる。



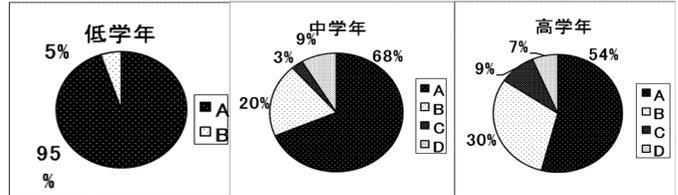
3 学習は分かりやすい。



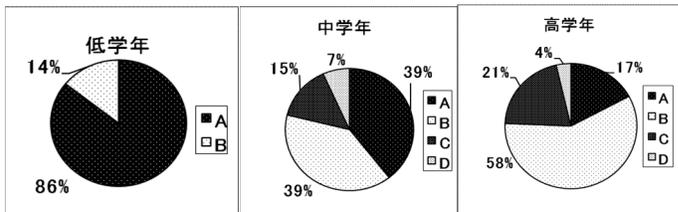
4 児童会活動や学校行事は楽しい。



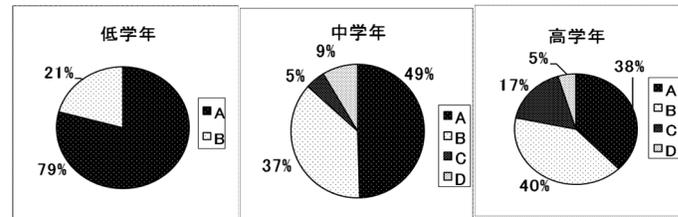
5 自分は運動することが好きである。



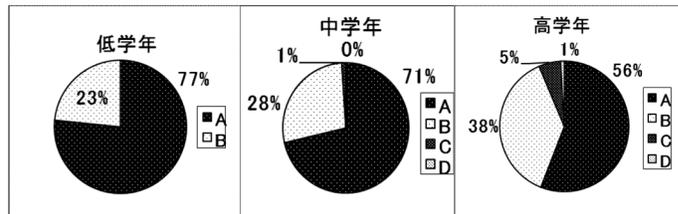
6 自分は決まりやマナーを大切にしている。



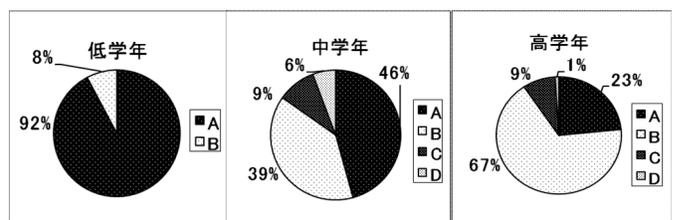
7 進んで「おはよう」「さようなら」「ありがとう」などのあいさつをしている。



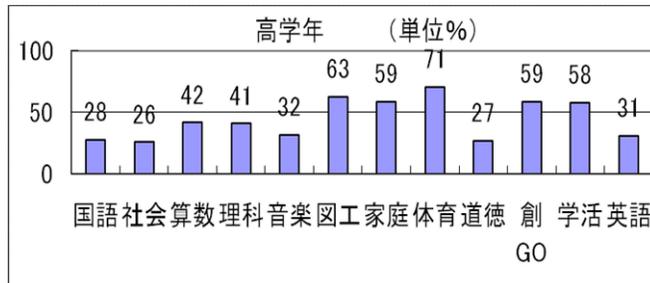
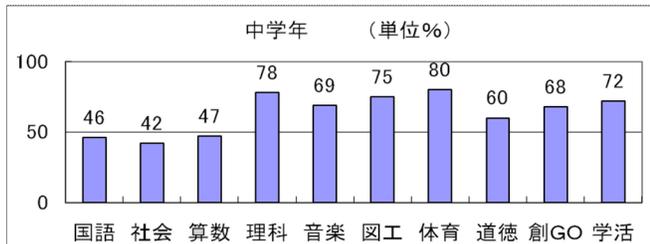
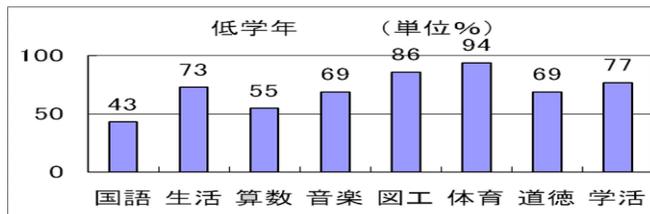
8 自分は友達や周りの人を大切にしている。



9 自分は友達や先生から大切にされている。



10 好きな学習は何ですか。(いくつでもよい。)



低学年の児童が学校は楽しいと答えている反面、中学年や高学年になるにつれて、学校が楽しいと答えている児童の割合が減ってきています。友達との関係、学習面でのつまずきなど、学年が上がるにつれてしんどさも出てきているのかもわかりません。子どもたちの良き相談相手になりながら、分かる授業・楽しい授業を作り上げていく努力をさらに積み重ねていくことが必要であると痛感しています。また、学校行事や特別活動等の充実を図り一人一人の子どもたちが生き生きと活動できる取組を進めていきます。

五條小学校の特色ある教育活動の一つである基礎・基本の時間は、学年が上がるにつれて意欲が低下している傾向が見られます。学習に根気強く取り組める力を育てるとともに、一人一人の伸びが分かるような工夫をしながら、子どもたちの意欲を高めていきます。五條小学校の基礎・基本の内容は学年ごとに系統立てたものを実施しています。6年間で身につけておきたい基本的な学習内容の定着を目指して、今後も日々取り組んでいきます。

学習が分かりやすいかどうかを問う質問事項では、学年が上がるにつれ、顕著な開きが見られます。学習が分かりにくい、あるいは、どちらかというとなりにくいと感じた高学年の児童の割合は15%に上ります。学年が上がれば、学習内容も難しくなっていくのは当然ですが、その内容が理解しづらいと思っている児童の割合が高いことは重く受け止めなければなりません。分かりやすい授業を目指して、教材教具の開発や発問の工夫などの授業研究をより一層取り組んでいかなければなりません。

せん。しかしながら、自主学習ノート等を活用し、自ら予習復習をする習慣も身につけなければ、高学年の学習を理解する力は育っていきません。家庭学習の習慣も定着するようご家庭のご協力もお願いします。また、分かりにくいところを気軽に質問できるような雰囲気作りや教師との関係作りも大切にしていきます。さらに、休み時間や放課後の時間を利用した個別指導にも力を入れていきます。

児童会活動や学校行事に関しては、学年を問わず、楽しいと答えている児童が多く、学校の活性化にもつながっていると感じます。今年度は、全学年親子ふれあい参観を実施し、多数のご参加をいただきました。児童会が実施するまごころ集会や運動会にも多数のご参加を頂き、子どもたちにとっては日頃の頑張りを披露する貴重な場となっています。今後も授業時数に支障のない範囲で、児童会活動や学校行事の充実を図ります。

運動が好きかどうかを問う質問に関しても高学年になるほど、運動好きの児童が減少していることがわかります。生活の変化とともに、運動する機会そのものが減っているのかもわかりません。しかし、児童期の運動は体の成長のためにも欠かせないものです。運動する意欲につながるような体育授業の工夫や働きかけを今後も続けていきます。また、運動会以外にも合同体育を実施する等、体育的行事の充実も図っていきます。

多くの人と気持ちよくなかかわっていくためには、あいさつやルール・マナーといったものが大切になります。小学校の6年間は、低学年の他律期から高学年の自律期へと成長していきます。人に教えられたことを、今度は人に教えることによって、よりよい人間として成長していくことができるのです。高学年には、その責任があります。高学年で、決まりやマナーを大切にしていないと答えた児童が25%もいることや、進んであいさつのできていない児童が22%もいることは学校としても看過するわけにはいきません。高学年としての意識を高め、自らの襟を正すことで下級生に良い見本を示すことができるよう、今後も職員一丸となって指導を続けていきます。

9番の結果からは、自分は周りの人を大切にしているが、周りの人からは大切にされていないと感じていない児童の割合が多いことがうかがえます。自分が大切にされていると感じることができれば、きっと他人を大切にすることもできます。私たち大人の言葉がけ、接し方を再確認するとともに、今後も厳しく指導するところは厳しく指導し、ほめるべきところはほめ、愛情を持って子どもたちと接していきます。

今後とも職員一同努力を続けてまいります。ご家庭のご理解とご協力もよろしくお願い申し上げます。